

## 能力伸長・体育祭メソッド

6月6日(火)、素晴らしい体育祭をありがとう。

さて、今回は、「能力伸長・体育祭メソッド」？と想像していらっしゃるかもしれませんが、要は開会式・閉会式で言ったことであり、開会式で申し上げたことについては繰り返しません。体育祭もまた、「能力伸長・生田メソッド」の重要な柱であるということです。ということで、ここでは、閉会式で触れたこと、各宮のデコに描かれたメッセージについて、もう少し、くわしく書きたいと思います。

(「敗者のいない体育祭」ではありますが、負けたチームは悔しいわけで、そうした皆さんを前にあれ以上の長話はできませんでした。)

(念のため、申し上げておきますが、メッセージ性でデコを審査しているわけではありません。)

夏宮は大谷選手に Are you ready? 開会式の団長宣言で「私たちは校長先生の言うとおりに、三兎も四兎も追い、…」と仰っていただきましたが、そのことで、私が最近、必ず引き合いに出すのが大谷選手です。もう耳にタコでしょうが、「大谷選手は凄い能力があるから二刀流ができると考えるのではなく、二刀流のおかげで凄い能力を身につけたと考えた方がいい」ということです。加えて、Are you ready? 米大リーグのレッドソックスなどで通算 219 勝を挙げ、サイヤング賞を 3 度受賞した往年の名投手ペドロ・マルティネス氏曰く、「何よりも感銘を受けるのは彼(大谷選手)の準備」と。イチロー選手の準備の凄さも有名です。サッカーの中田英寿さんを「準備の天才」「努力の天才」と呼ぶとき、必ず引き合いに出されるのが、「怪我に泣いた天才」財前宣之さん。中田さんは、財前さんを天才と呼びますが、世界レベルで結果を残したのは、「準備の天才」「努力の天才」中田さんでした。

地宮は鷲。「鷲ヶ峰」説は失笑を買いましたので、取材をしたところ、原作はラプンツェル、重要キャラクターとしてカメレオンが登場しますが、カメレオンはデコに映えないということで、強いイメージでキャラを探し、「鷲」に行き着いたそうです。そこから発展して、原作にあるコロナ王国は、コロナウイルスとの連想を避けるため、イーグル(鷲)王国となったそうです。閉会式で言ったとおり、鷲はタカ目タカ科の大きな鳥です。大きな鷹もいれば、小さな鷲もいて紛らわしいですが、基本的には鷹よりも大きいのが鷲です。「高校卒業後の進路をゴールにしない。スタートにする。」皆さんには、目先のことにとらわれず、大らかに勉強して、大きくなってほしい。そんな私の思いを「鷲」に重ねました。今ごろ、私の「鷲ヶ峰」説も、「悪くないね」となっているのではないかと密かに期待しています。

風宮は卍と天上天下 (てんげ) 唯我独尊。東京リベンジャーズのことは後から知りました。卍はハーケンクロイツ (鉤十字、逆卍) ではありません。ハーケンクロイツは、古代ギリシャの遺跡から見つかった記号を原案としており、ナチス以前からあるわけですが、現在ではナチスを意味するものになってしまいました。卍は古代インドのサンスクリット語に由来しており、「おめでたいこと」「幸福」という意味があり、寺院を表す地図記号としても使われています。「天上天下唯我独尊」、これは、「自分は、天上天下にただ一人、誰とも代わることのできない人間であり、何一つ加える必要はなく、いのちのままに尊い」という自己認識のことです。閉会式で、私は「健全な自己愛は他者尊重の前提」と言いました。個人主義が利他主義に通じるというのが、私の信念です。【「不確実で複雑な時代」を生き抜く「主体的な意志のある自立した『個』】を育成するのもそういう考え方に根差しています。私は、私のプライドを「ありのままの自分を愛し、正義を愛する、人に優しい精神」と語っています。これも同様です。

水宮は積水成淵。成淵は「せいえん」「淵を成す」。「少しの水も集まれば淵になる」という意味から、「小さいものでも、数が多くなれば大きな力になる」と。「協働」です。「協働」の前提は「個の力」です。「0 + 0」は「0」です。協働になりません。「1 × 1」は「1」です。相乗効果は生まれません。「2以上」の力が必要です。これが生田メソッドの考え方です。「積水成淵」、「努力を積み重ねていけば願いを叶えることができる」という意味にも使われます。「高い目標」に向かっていくことです。「準備の天才」「努力の天才」です。あらゆる成功は、成功するまでは失敗でした。

以上、手前味噌ですが、「能力伸長・生田メソッド」は「万事に通じる」わけです。これも、閉会式で言いましたが、「能力伸長・生田メソッド」といういかにも凄いネーミングで語っていることは、至極当然のことだということです。至極当然のことだから、「万事に通じる」わけです。というわけで、皆さん、大らかな気持ちで勉強しましょう。

余談です。開会式の団長メッセージで「校長先生を笑わしたい」「笑っている顔を見たことがない」と言われましたが、既にあの時、笑いましたし、昨年、一昨年、団長メッセージは笑わせてもらっています。なので、閉会式でも笑いたかったのですが、いくら「敗者がいない」とは言え、笑うわけにはいきませんでした。

平成13年度、1年間、横浜高島屋で働きました。教員をやめたわけではありません。民間企業派遣体験研修です。1年間、売り場に立ちました。ある時、お客様から「顔が怖い」と言われ、大いに反省し、スマイルを努力しましたが、修行が足りなかったようです。ラグビーの稲垣啓太さんは仏頂面で「満面の笑み」と言いますが、私は稲垣さんとは違い、もっとわかりやすく笑いたいと思います。

さらに余談ですが、授業をしていたころの私は、生徒から「ふっくん」と呼ばれていました。副校長になってからも、ある時、緊急の対応で、職員の個人携帯に電話をしたら、その職員の席に携帯電話が置かれており、画面には「ふっくん」と表示されていました。ということで、ブリテンズ・ゴット・タレントでその名を轟かせた「とにかく明るい安村」さん風に。I'm Fukkun. Don't worry. I'm laughing.

さあ、勉強しよう。